



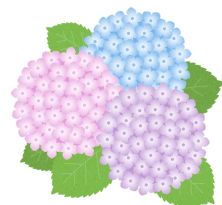
北区立王子小学校 校長 原田 英孝
巡回拠点通信
令和7年5月30日 第2号
巡回拠点おうじ 巡回指導教員
03-5902-3368(直通電話)

暑い時期になりました

晴れたり雨が降ったりと、天気の変り変わりが多い時期になりました。室内や戸外に関係なく、子供たちは汗ばみながらも日々色々な遊びを楽しんでいます。

学校では、新しい学級にも慣れ子供たちの活動も更に広がっています。体調を崩しやすい時期になりますので、生活リズムを整え、元気に過ごしてもらいたいです。

保護者の皆様、いつもお子様の健康面・学習面などの管理と支援をしていただき、ありがとうございます。引き続き、ご協力よろしくお願い致します。



今後の予定

・7月17日(木)夏季休業前巡回指導終了

・9月1日(月)巡回指導開始



～お子さんに合わせた学習用具や支援方法の紹介～

進級して2ヶ月が経ち、子供たちも新しい生活に慣れてきた頃だと思えます。今回は、子供たちの苦手なことに配慮した学習用具や支援方法をご紹介します。



○支度・整理整頓・忘れ物

不器用でうまく片付けられない、片付ける場所が分からないお子さんは、運動機能や実行機能の弱さが考えられます。また、不器用さによって配布物をうまくたたむことや教科書類を引き出しに入れることが難しくなる場合があります。忘れ物が多いお子さんは、必要なものを覚えてもらえない、メモを取れないといった様子がみられます。そんな苦手に合わせた支援が以下のとおりです。

①教科ごとにファイリング

教科ごとにファイルを準備して、教科書やノート、プリントを入れるようにしましょう。



②自分の持ち物に手掛かりをつける

持ち物には子供の名前や本人が気に入っているマークなどを付けます。それが手掛かりになり、持ち物を認識しやすくします。



③置き場所を決めて視覚的に示す

筆箱やお道具箱、教科書、ノートなどを入れる場所を写真やイラストを用いて分かるようにします。



④スペアを準備する

鉛筆や消しゴムなど、スペアが準備できるものはあらかじめ用意して、学校に置いておきましょう。



○読み・書き・道具の操作

ノートに書き写すことが難しいお子さんは、視覚や実行機能、注意集中の弱さが考えられます。板書を書き写すためには、視点を切り替えて書き写していく眼球運動が関係しています。また、言語機能が弱く、読み書きの苦手さからうまく書き写せないという場合もあります。更に、手先の不器用さがあると、ノートに文字を書いたり消したりすることに時間が掛かりやすくなります。一定の姿勢を保つことに過度な努力が必要な場合には、姿勢が崩れやすいだけでなく、書くことにも影響がでることもあります。そんな苦手に合わせて支援が以下のとおりです。

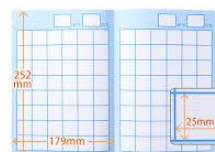
⑤姿勢を保ちやすい環境にする

椅子の座面にチェアマットや滑り止めマットを使って、子供が姿勢を保ちやすい環境を整えます。



⑥発達にあったマス目を使用する

年齢や学年ではなく、子供の手の発達の状況にあわせて、マス目の大きさを決めます。



⑦読みやすくする工夫をする

単語と単語の間にスラッシュを入れたり、利き手の指で文字をなぞりながら読んだり、下敷きで読むべき箇所以外を隠しながら読んだりする方法もあります。



⑧扱いやすい道具を使用する

目盛りが読みやすい定規や本体が滑りにくくなった定規を使ったり、指や手首で細かな動きをしなくても円を描けるようになります。

